

2017年度 第6期

iCD (iコンピテンシ ディクショナリ) 活用
ワークショップ／実施報告会

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
人材委員会 副委員長 理事
iCD研究会 主査

(株)インフォテック・サーブ

代表取締役 木田徳彦

Agenda

15:00～15:40 iCDの概要と
活用ワークショップの実施内容

(15:40～15:50 休憩)

15:50～17:00 参加企業による
ワークショップ評価及び感想

17:00～17:30 iCDの最新情報と今後の活動について

- ・iCD活用認証制度
- ・iCDコミュニティ
- ・第7期ワークショップ参加企業募集
- ・iCD協会の設立 等

質疑応答

はじめに

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会(略称:CSAJ)

会 長：荻原 紀男 (おぎわら のりお)
／株式会社豆蔵ホールディングス 代表取締役社長

会員数：548社・団体(うち正会員440社／平成29年6月現在)

イノベーションをリードするソフトウェア集団

自社で市場ニーズを分析し、企画、開発、商品化した既成ソフトウェア(企画開発型ソフトウェア)を販売、またそれを利用した各種サービスを行っている企業は、日本のIT化を促進し、革新を起こします。

われわれCSAJはそのような企業の集合体として日本のIT社会を未来へ導いてまいります。

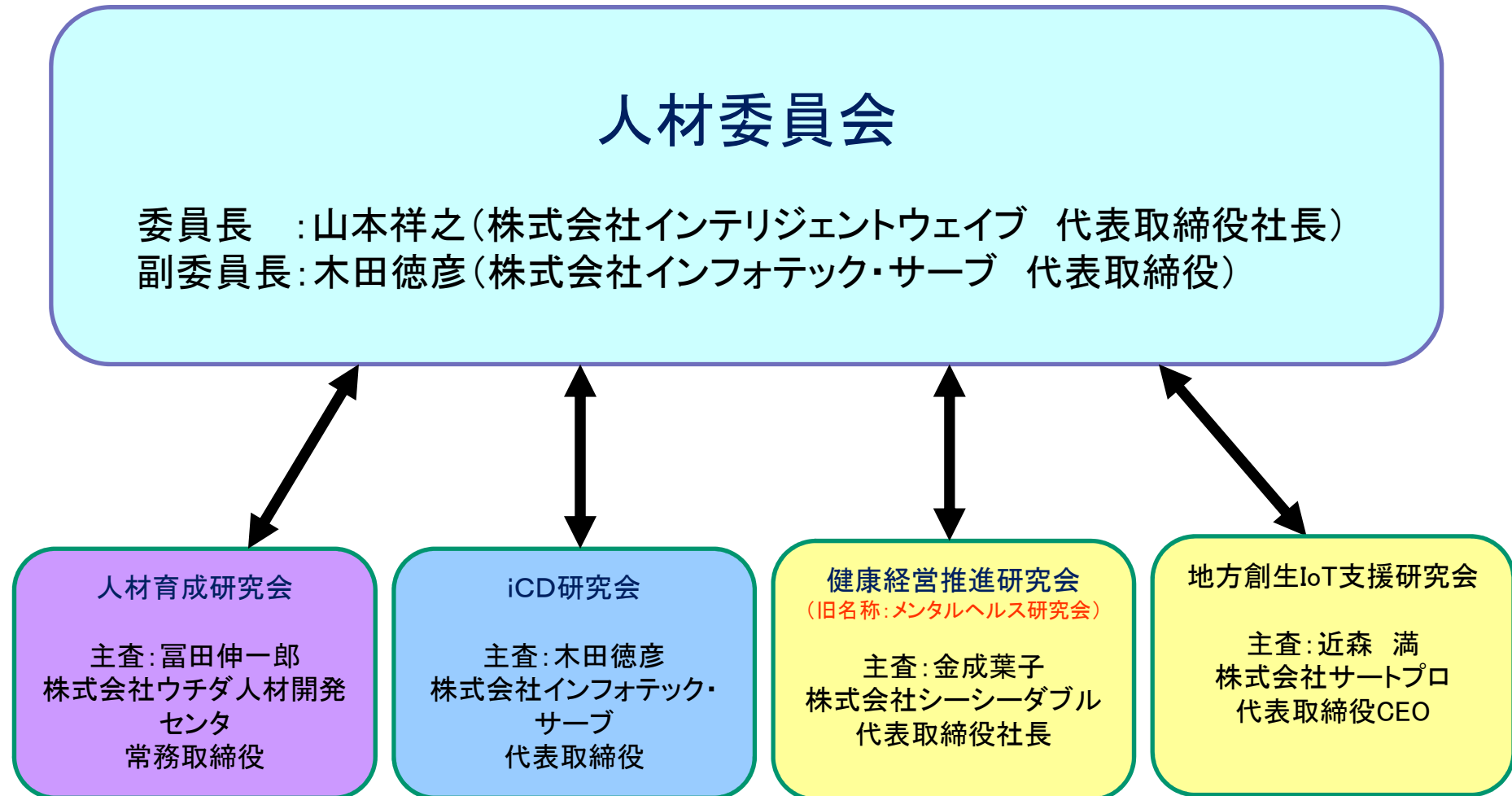


CSAJでは各種事業活動を展開しています。



はじめに

2017年(平成29年)度のCSAJ人材育成関連組織



これまでのiCD関連の活動(1)

- 【2012年】 ①第1期CCSFワークショップの推進(6社)
- 【2013年】 ①第2期CCSFワークショップの推進(3社)
②CCSFコミュニティの創設と運営(5回/年)
- 【2014年】 ①第3期iCDワークショップの推進(4社)
②iCDコミュニティの運営(2回/年)
③他団体のワークショップの後援・支援(愛知県情産協, 神奈川県情産協)
④マネジメントタスクの作成
- 【2015年】 ①第4期iCDワークショップの推進(3社)
②iCDコミュニティの運営(2回/年)
③他団体のワークショップの後援・支援(愛知県情産協)
④エデュケーションタスクの作成
⑤iCD活用認証制度の推進



iCD活用ワークショップ

これまでのiCD関連の活動(2)

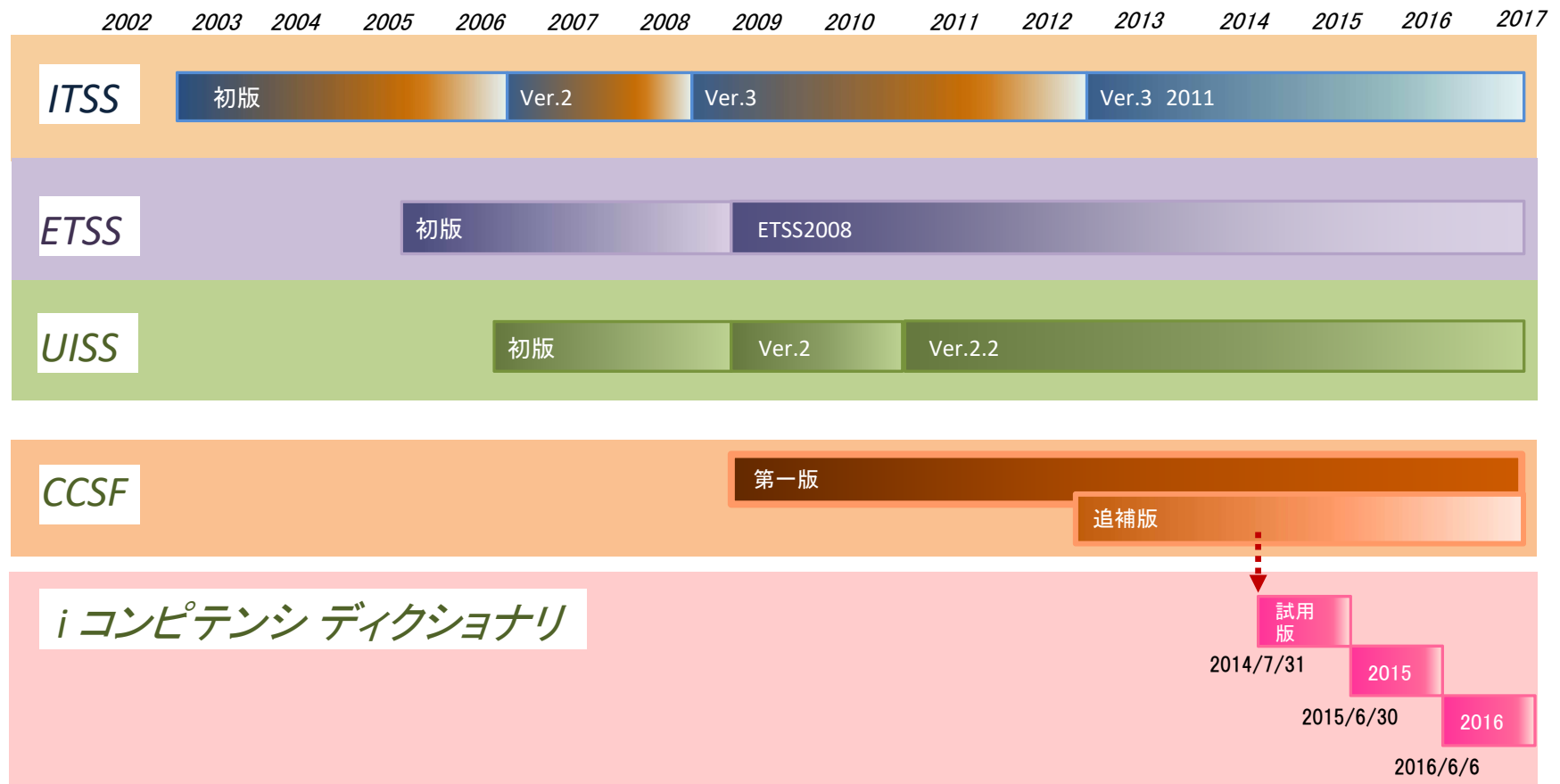
- 【2016年】
- ①第5期iCDワークショップの推進(4社)
 - ②iCDコミュニティの運営(2回/年)
 - ③他団体のワークショップの後援・支援(青森県情産協)
 - ④コールセンタータスクの作成
 - ⑤iCD活用認証制度の推進
 - ⑥iCDタスクフォース参加
- 【2017年】
- ①第6期iCDワークショップの推進(5社)
 - ②iCDコミュニティの運営(5回/年)
 - ③他団体のワークショップの後援・支援(JASA東京・大阪, JUAS)
 - ④iCD活用認証制度の推進
 - ⑤iCD協会(仮称)設立に向けた委員会・WGへの参加

iCDコミュニティ



iCD (iコンピテンシディクショナリ)の概要(1)

3スキル標準の改訂と展開

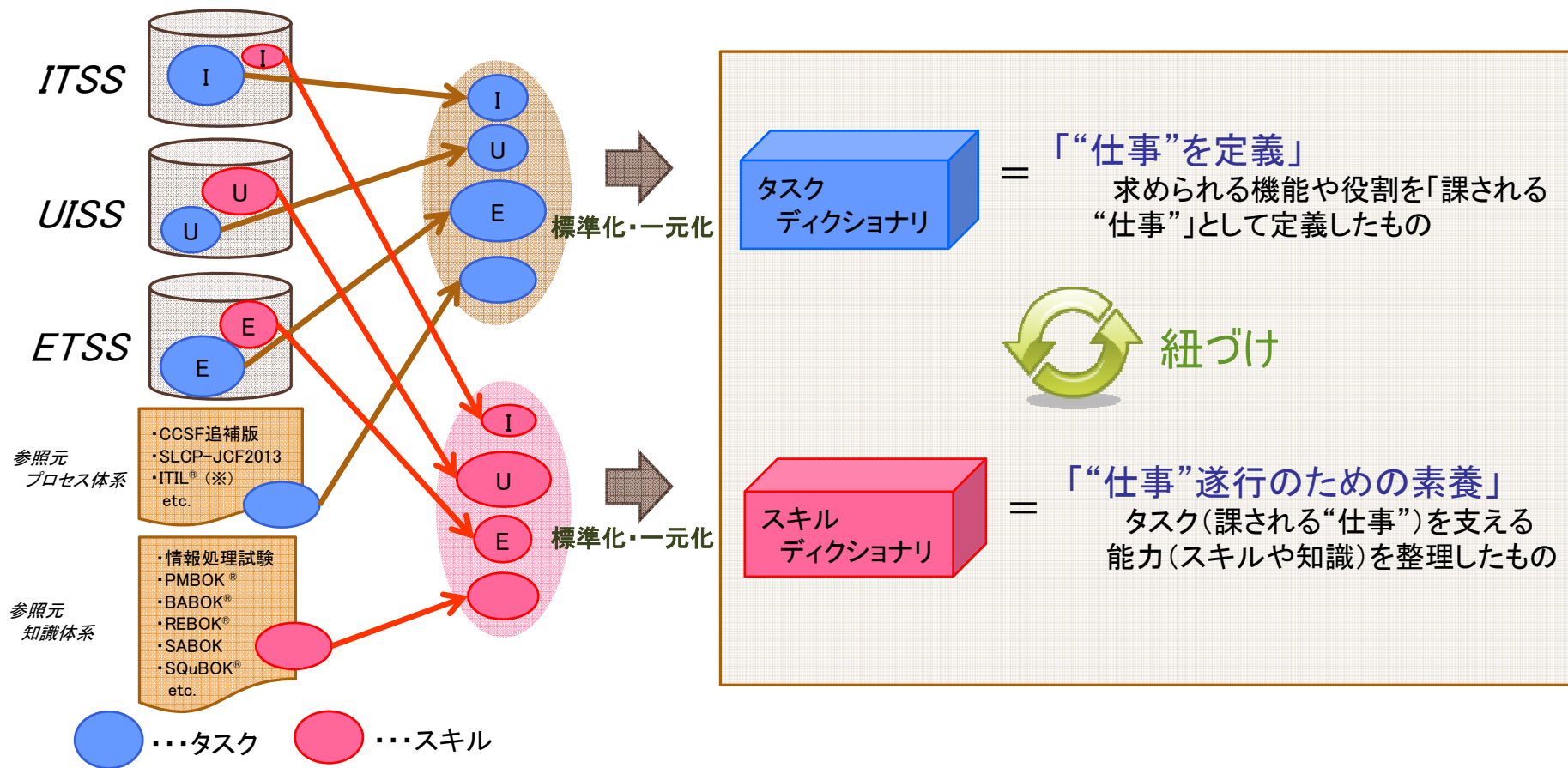


2017年6月20日 iコンピテンシディクショナリ2017公開!

iCD (iコンピテンシディクショナリ) の概要 (2)

iコンピテンシ ディクショナリとは？

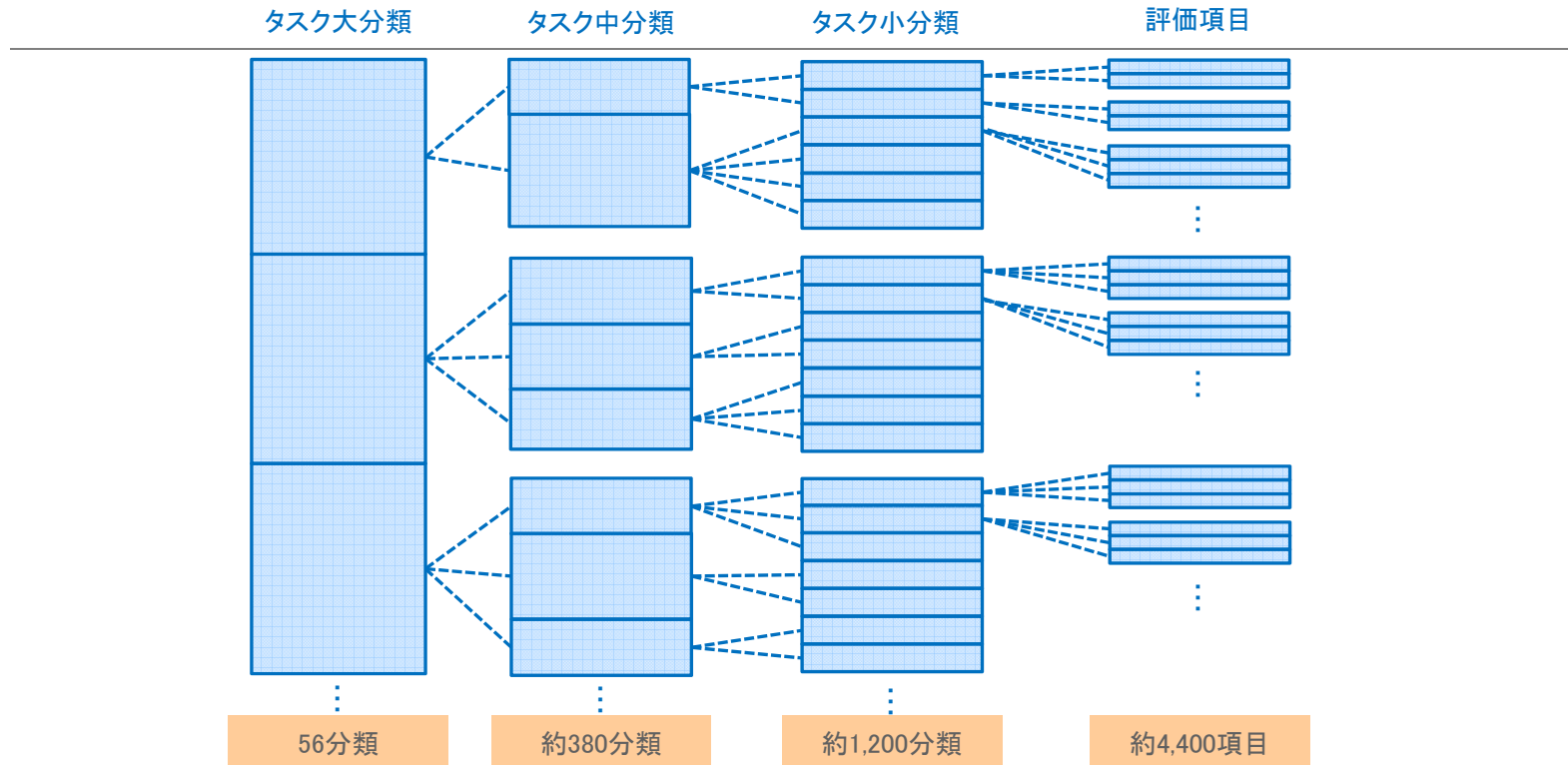
各組織が人材育成について検討／見直しをする際、自組織の戦略に合わせて自由に抽出して使えるよう、各スキル標準などの様々な体系が持つコンテンツを、「**タスクディクショナリ**」「**スキルディクショナリ**」の2つのディクショナリとして標準化・一元化したもの



タスクディクショナリ(1)

定義

「課される“仕事”」:組織、個人に求められる機能や役割。4階層のモデルで整理、体系化したもの。



特色

- 1) ITビジネスにかかわる主要プロセス体系(右欄:参照元)との参照性を高め、MECEに整理
- 2) ビジネスモデル、業態、開発手法等の観点で、必要なタスクセットをモデル化(タスクプロフィール)
- 3) 個人がタスク遂行実績を評価する項目(評価項目:約4,400項目)を付加
- 4) 企業単位での利便性を考慮し、「営業業務」「総務・経理・人事」などの業務タスクを追加(協力:CSAJ、FISA)

参照元

- ・CCSF(第一版・追補版)
- ・SLCP-JCF 2013
- ・ESPR Ver.2.0
- ・ITIL® 2011 Edition ほか

タスクディクショナリ(2)

		計画・実行	管理・統制	推進・支援	その他業務
戦略	ST01	事業戦略策定			
	ST02	事業戦略把握・策定支援			
	ST03	IT製品・サービス戦略策定			
企画	PL01	IT戦略策定・実行推進			
	PL02	システム企画立案			
ライフサイクル	DV01	システム要件定義・方式設計			
	DV02	運用設計			
	DV03	移行設計			
	DV04	基盤システム構築			
	DV05	アプリケーションシステム開発			
	DV06	ソフトウェア製品開発			
	DV07	組込みソフトウェア開発			
	DV08	Webサイト開発			
	DV09	システムテスト			
	DV10	セキュリティテスト			
	DV11	移行・導入（システムリリース）			
	DV12	ソフトウェア保守			
	DV13	ハードウェア・ソフトウェア製品導入			
	DV14	ファシリティ設計・構築			
利活用	US01	サービスデスク			
	US02	IT運用コントロール			
	US03	システム運用管理			
	US04	Webサイト運用管理			
	US05	ファシリティ運用管理			
評価・改善	EV01	システム評価・改善			
	EV02	IT戦略評価・改善			
	EV03	IT製品・サービス戦略評価・改善			
	EV04	事業戦略評価支援・改善支援			
	EV05	事業戦略評価・改善			
	EV06	資産管理・評価			
専門領域	EX01	セキュリティ領域 ※1、※2			
	EX02	データサイエンス領域			

プロジェクト	タスク	内容	
プロジェクトマネジメント	PL03	UIデザイン	
	DV15	プロジェクトマネジメント	
	ラインマネジメント	MC01	ラインマネジメント
		MC02	事業継続マネジメント
		MC03	情報セキュリティマネジメント
		MC04	品質マネジメント
		MC05	契約管理
		MC06	コンプライアンス
		MC07	人的資源管理
	システム監査	MC08	内部統制状況のモニタリング
		MC09	システム監査
		CM01	マーケティング・セールス
	新ビジネス・新技術の調査・分析と技術支援	CM02	再利用
		CM03	調達・委託
CM04		標準の策定・維持・管理	
CM05		新ビジネス・新技術の調査・分析と技術支援	
CM06		データ利活用	
CM07		新たな価値創造による新規製品・サービス開発 ※1	
SP01		営業業務 ※1	
その他業務	SP02	総務・人事・経理	
	SP03	エデュケーション	
	SP04	コールセンター	
	SP05	IoTシステム・サービスのライフサイクル ※1	

※1 他タスクと重複するタスク中分類、タスク小分類、評価項目を含んでいるタスク大分類
 ※2 情報処理安全確保支援士（登録セキスベ）の役割として想定するタスク

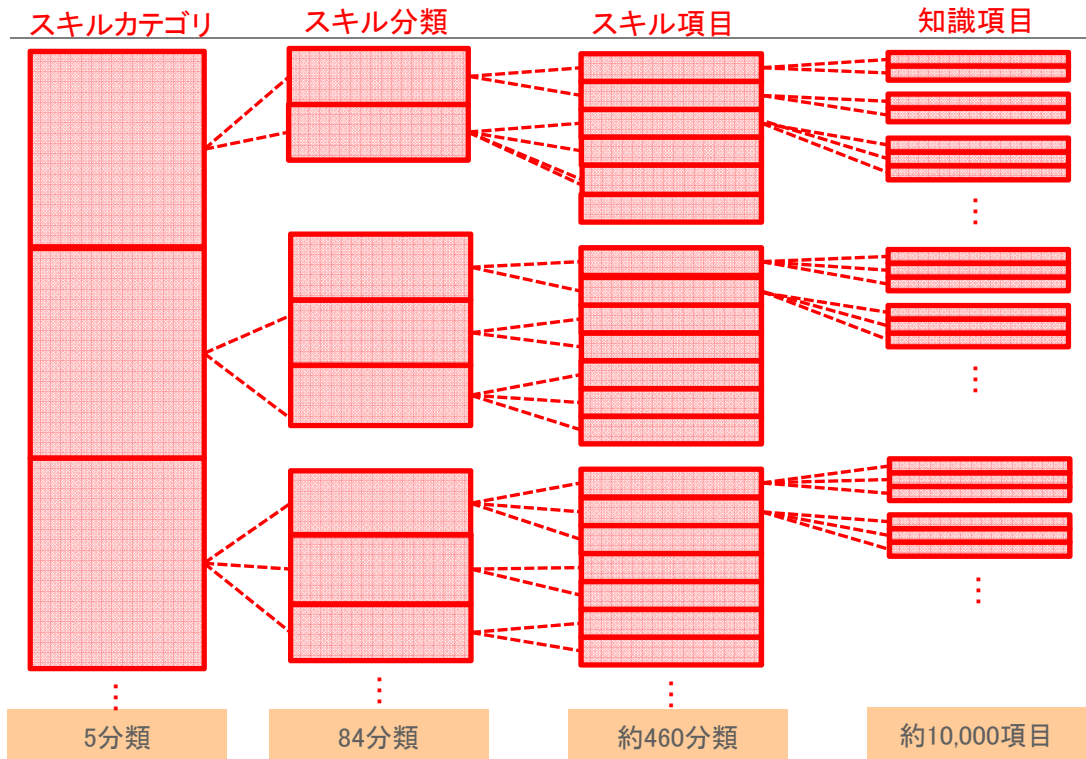
タスクディクショナリ(3)

タスク大分類	タスク中分類	タスク小分類	評価項目	
アプリケーションシステム開発	ソフトウェア要件定義	機能要件と非機能要件の定義	業務の進め方や業務同士の連携等、ビジネスプロセスに関する要件を定める	
			ビジネスプロセス単位の機能要件を定める	
			ビジネスプロセス単位の性能、信頼性、使用性、効率性、保守性、移植性等の非機能要件を定める	
			検討結果と成果物に基づき、プロセスモデルを作成する	
		インタフェース要件の定義	データの受け渡しを行う他の業務および受け渡しを行うデータを抽出する	
			データの受け渡しの方向（入力、出力、入出力）、手段、方法、タイミングを検討する	
			バックアップ、リカバリに関するデータファイル保全方式を検討する	
			サブシステム間や他システムとのインタフェースの要件を定める	
		ユーザビリティを考慮してユーザインタフェースの要件を定める	概念データモデルの作成	システム化対象範囲のすべてのデータを分析し、管理すべきデータを抽出する
				ビジネスルールを踏まえて、システム化対象範囲のデータ構造をER図にまとめる
データ（エンティティ）とビジネスプロセス（機能）との関連をCRUD図にまとめ、データライフサイクルを検証する				
ソフトウェア要件の評価	システム要件およびシステム方式設計への追跡可能性を評価する			
システム要件との外部一貫性を評価する				
ソフトウェア要件の内部一貫性およびテスト可能性を評価する				
ソフトウェア方式設計の実現可能性を評価する				
運用および保守の実現可能性を評価する				
パッケージ利用時のフィット&ギャップ分析	機能要件に対するパッケージ機能の網羅性を検証する			
	外部インタフェース要件に対するパッケージの外部インタフェースの網羅性を検証する			
	概念データモデルに対するパッケージデータモデルの適合性を検証する			
	機能、外部インタフェース、データ構造の適合性と網羅性の検証結果により、パッケージの利用可否を判断する			
			パッケージを利用する場合、カスタマイズやアドオンの範囲および	
			成果を評価する	
			ビジネスでの活用の視点から、データサイエンスの活動の課題を次期のプロジェクトにフィードバックする	

スキルディクショナリ(1)

定義

「タスク遂行のための素養」:タスクを支える能力(スキルや知識)を体系化したもの。
 スキル3階層と知識項目から構成される。



参照元

参照元	小分類数	知識項目数
情報処理試験	100	691
ITSS	656	2,822
ITS	78	359
UISS	55	1,302
ETSS	47	273
J07	167	2,844
BABOK®	14	163
CBK	10	51
ITIL®	78	381
PMBOK®	10	47
REBOK®	18	97
SABOK	14	123
SQuBOK®	88	802
SWEBOK	45	301
SSUG	8	37
SecBoK	58	840
CAIS_BOK	8	78
∴	∴	∴
合計	1,557	13,836

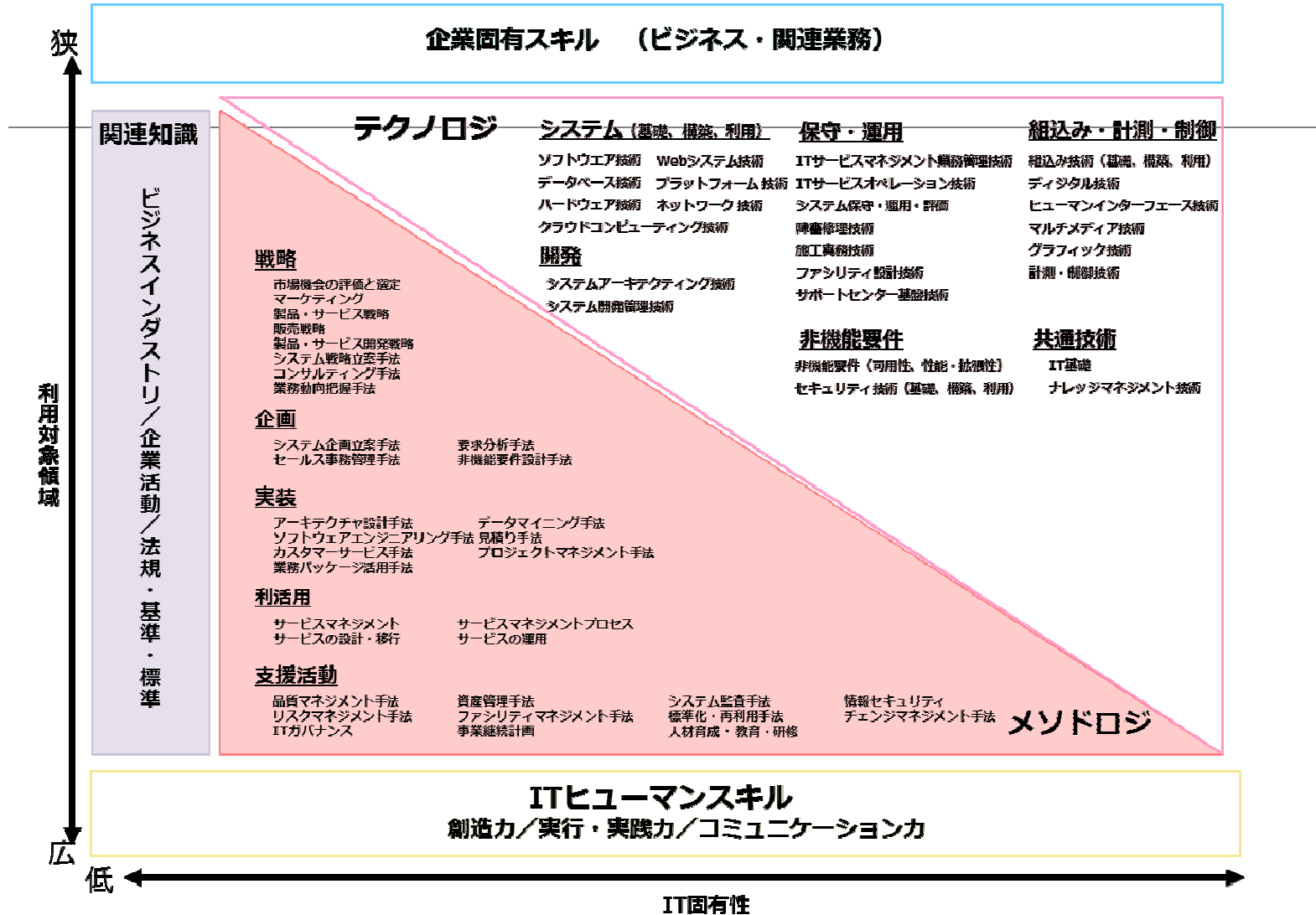
特色

- 1) IT業務に必要なスキルと知識を、主要な参照元の知識項目に基づき網羅的に構造化して提示
- 2) スキルカテゴリは、「テクノロジー」「メソドロジー」「関連知識」「ITヒューマンスキル」「企業固有スキル(ユーザ領域)」の5分類から構成
- 3) 情報処理試験「[午前の試験]出題分野」に準じた整理体系

注)参照元より抽出した小分類、知識項目は各々の重複を整理したため、スキルディクショナリ上の数は減っている

スキルディクショナリ(2)

スキルディクショナリ構成図



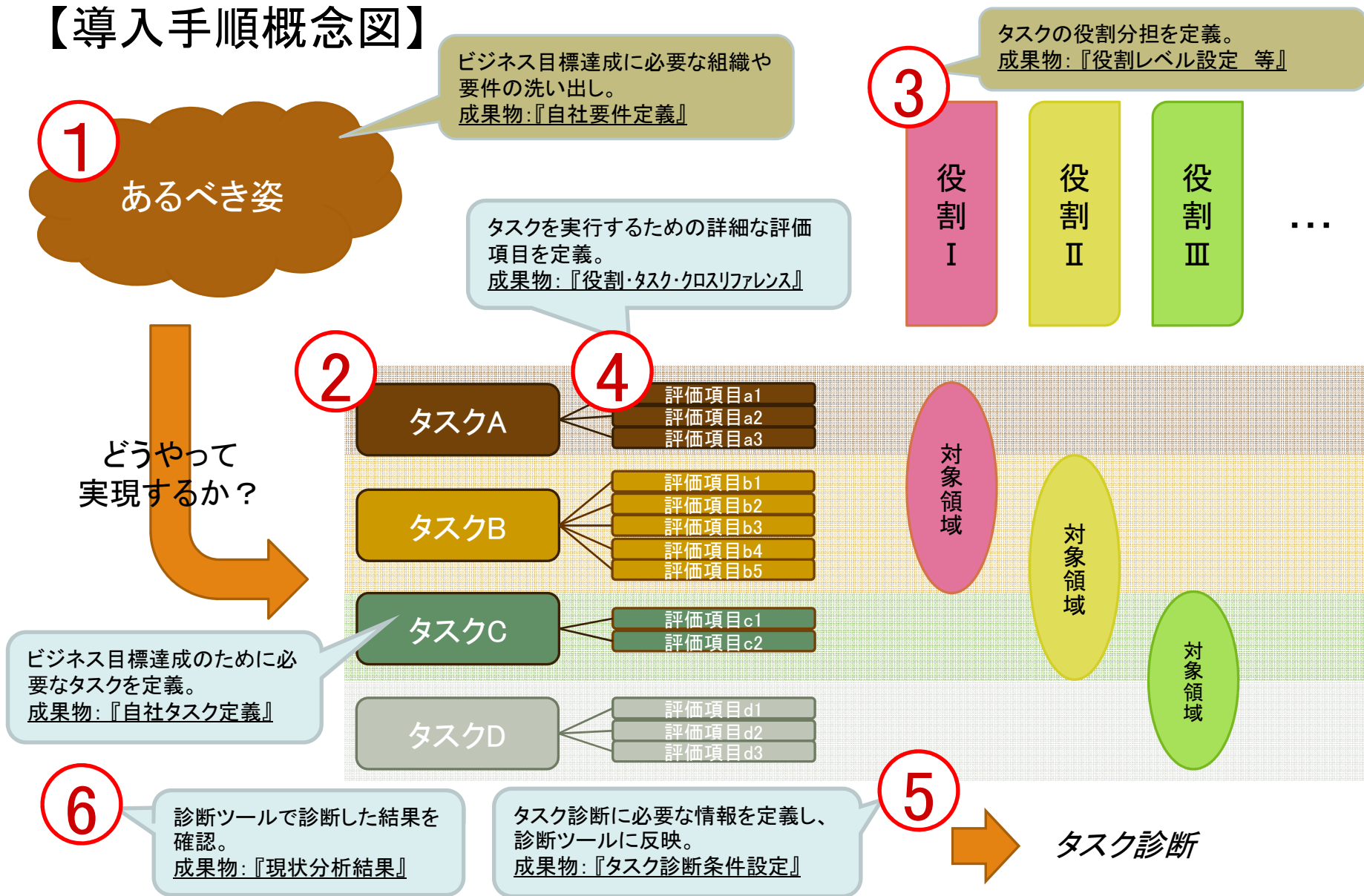
タスクとスキルの関係

タスク × スキル 対応表 (抜粋)

				スキル項目コード	S110010010	S110010020	S110010030	S110010040	S110010050	S110010060	S110010070	S110020010	S110020020	S110020030	S110020040	S110030010	S110030020	S110030030	S110030040		
				スキルカテゴリ	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド	メソッド		
				スキル分類	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)市場機会の評価と選定	(戦略)マーケティング	(戦略)マーケティング	(戦略)マーケティング	(戦略)マーケティング	(戦略)製品・サービス戦略	(戦略)製品・サービス戦略	(戦略)製品・サービス戦略	(戦略)製品・サービス戦略		
タスク小分類コード	タスク大分類	タスク中分類	スキル項目	タスク小分類	ビジネス環境分析手法	ビジネス戦略と目標・評価	業界動向把握の手法	経営管理システム	経営戦略手法	最新技術動向把握の手法	市場調査手法	ブランド・製品戦略手法	マーケティング・コミュニケーション戦略手法	マーケティング・マネジメント手法	マーケティング分析手法	製品戦略手法	サービス戦略手法	ITSM戦略手法	データセンタ戦略手法		
ST-010-010-010	事業戦略把握・策定支援	要求(構想)の確認	経営要求の確認		◎				◎												
ST-010-010-020			経営環境の調査・分析と課題の抽出	◎	◎	◎	◎	◎	◎												
ST-010-020-010		新ビジネスモデルへの提言	業界動向の調査・分析	◎	◎	◎	◎	◎	◎												
ST-010-020-020			ビジネスモデル策定への助言	◎	◎		◎	◎	◎												
ST-010-030-010		事業戦略の実現シナリオへの提言	事業戦略の実現シナリオへの提言	実現可能性の確認		◎		◎		◎											
ST-010-030-020				全社戦略の展開における活動・成果指標の設定		◎				◎											
ST-010-030-030				課題とリスクの洗い出し		◎	◎	◎													
ST-010-030-040				超概算予算の算出		◎															
ST-020-010-010		IT製品・サービス戦略策定	市場動向の調査・分析・予測	市場機会の発見と選択													◎	◎	◎	◎	
ST-020-010-020	ターゲット市場のビジネスチャンス分析																◎	◎	◎	◎	
ST-020-020-010	IT製品・サービス戦略の策定		IT製品・サービス戦略の策定	ビジネス機会の分析													◎	◎	◎	◎	
ST-020-020-020				新規製品・サービスの企画														◎	◎	◎	◎
ST-020-020-030				既存製品・サービスのロードマップ更新														◎	◎	◎	◎
PL-010-010-010	IT戦略策定・実行推進	基本方針の策定	現状分析・環境分析																		
PL-010-010-020			IT基本方針の策定																		

活用ワークショップの内容

【導入手順概念図】



活用ワークショップの内容

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
① 自社要件定義	説明・ サンプル提示	各社プレゼン・ 確定				
② 自社タスク定義		説明・ サンプル提示	各社プレゼン・ 確定			
③ 役割概要設定			説明・ サンプル提示	各社プレゼン・ 確定		
④ 役割・タスク クロスリファレンス I			説明・ サンプル提示	各社プレゼン・ 確定		
⑤ 役割・タスク クロスリファレンス II				説明・ サンプル提示	各社プレゼン・ 確定	
⑥ 役割レベル設定				説明・ サンプル提示	各社プレゼン・ 確定	
⑦ 現状分析予測				説明・ サンプル提示	各社プレゼン・ 確定	
⑧ 現状分析結果					説明・ サンプル提示	各社プレゼン・ 確定

活用ワークショップの内容

第6期ワークショップ開催日程

事前説明会

6月29日(火) 15:00~17:00/CSAJ

第6期ワークショップ/全6回(原則3時間30分/回)

① 7月 7日(金) 14:00~21:00/幕張
② 7月 8日(土) 09:00~12:00/幕張

③ 7月20日(木) 14:00~17:30/CSAJ

④ 8月 9日(木) 14:00~17:30/CSAJ

⑤ 8月24日(木) 14:00~17:30/CSAJ

⑥ 9月14日(木) 14:00~17:30/IPA

テイクオフ・ミーティング

10月12日(木) 個別フィードバック(1社1時間)

主催:CSAJ(一般社団法人コンピュータソフトウェア協会)

後援:IPA(独立行政法人 情報処理推進機構)

活用ワークショップの内容

第6期ワークショップ参加企業(5社)

日本ナレッジ株式会社

サクサ株式会社

オー・エイ・エス株式会社

株式会社シー・シー・ダブル

株式会社テクノブレーン

講師

CSAJ iCD研究会 主査

株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役 木田 徳彦

サブ講師・オブザーバー

IPA 人材育成本部 HRDイニシアティブセンター 事業グループリーダー 遠藤 修

IPA 人材育成本部 HRDイニシアティブセンター 事業グループ 土田 修

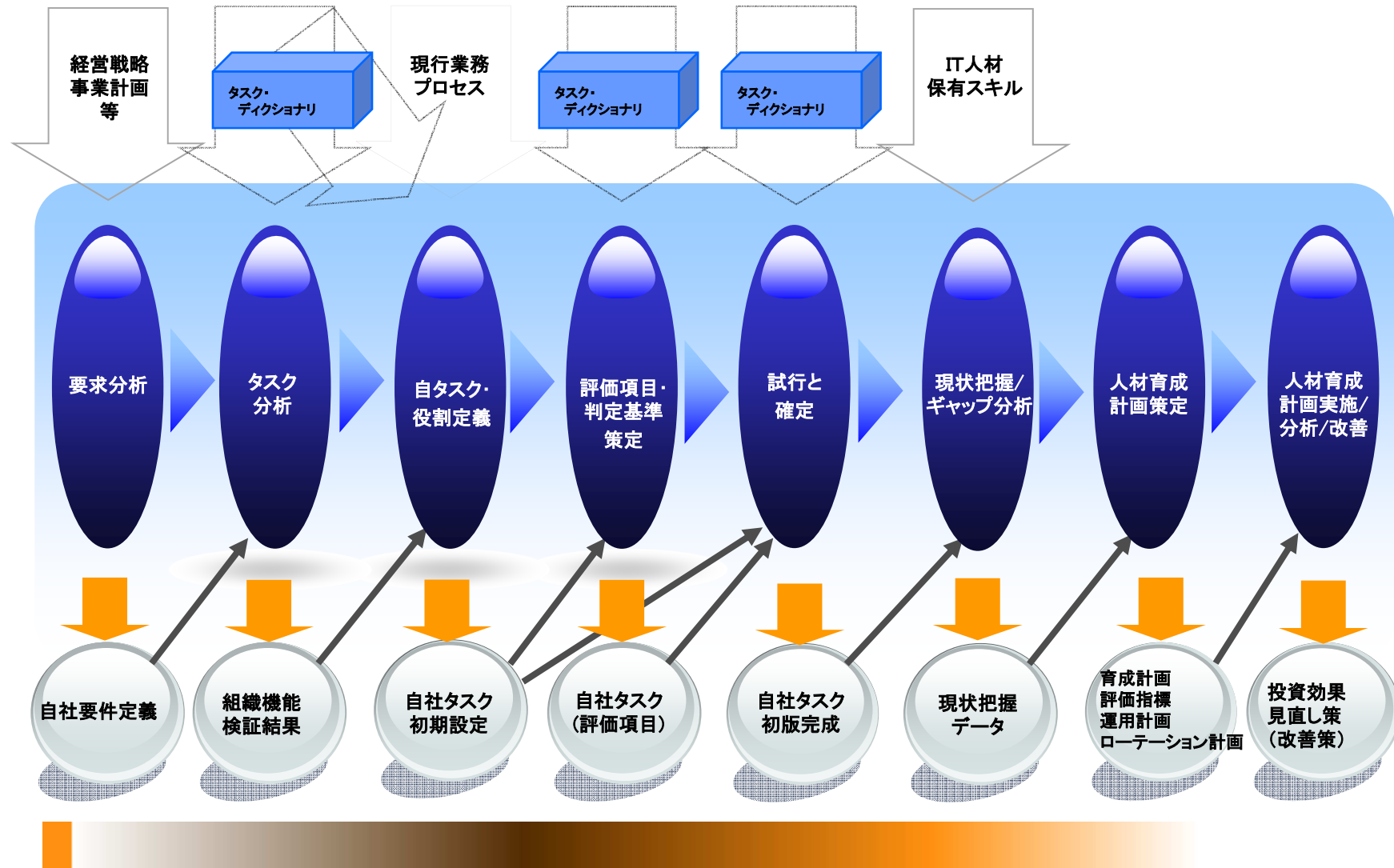
株式会社IPイノベーションズ セールスコンサルティング部 井上 淳

事務局

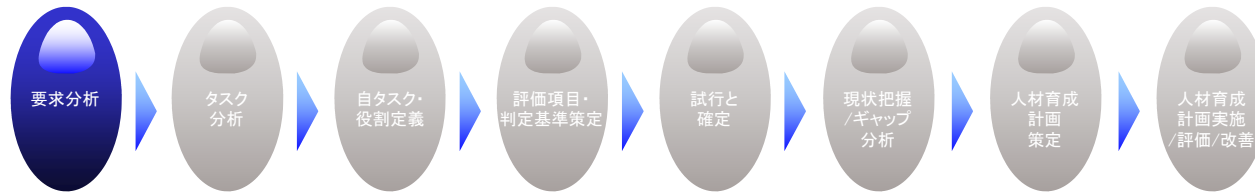
株式会社インフォテック・サーブ コンサルティング事業部 志村智子

CSAJ 総務課 山田篤子

活用ワークショップの内容



活用ワークショップの内容／要求分析

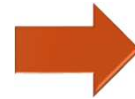


INPUT

経営戦略 事業計画

3. 中期方針・中期目標及び上記1、2に基づいた実行戦略
 [Challenge 3.0. Catch the our Delight!] 売上高30億円達成への組織刷新と顧客確保を目指す。

経営戦略と事業計画の具体的な内容が記載されたドキュメントのスクリーンショット。各セクションには詳細な戦略的指針と目標が記述されている。



OUTPUT

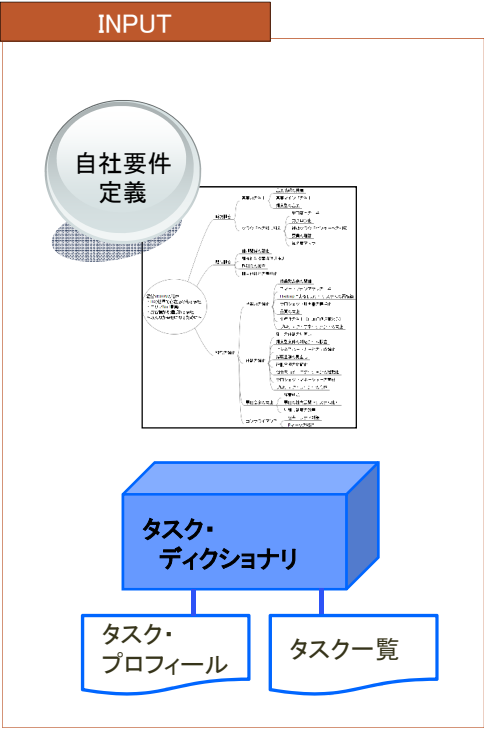
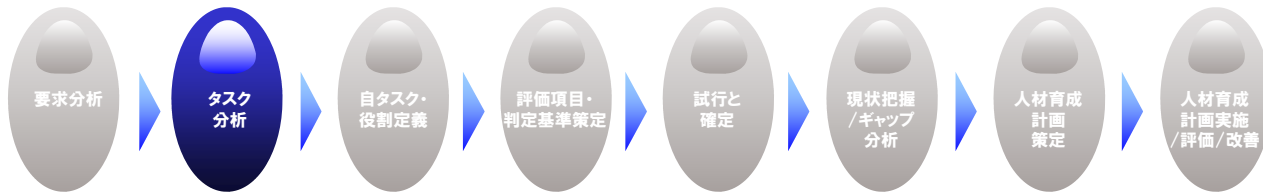
自社要件定義 成果物①

経営VISIONの達成
 ・ITの世界で存在感のある会社
 ・エリアNo.1戦略
 ・お客様から選ばれる会社
 ～みんなが幸せになるために～

- 新規顧客
 - 営業力の向上
 - 営業情報の共有
 - 営業マインドの向上
 - 提案型の営業
 - 出口商品の開発
 - カタログ化
 - 複数クラウドベンダーへの対応
 - 要員の増強
 - 知名度アップ
 - クラウドへの取り組み
- 既存顧客
 - 信頼関係の強化
 - 積極的な提案活動を推進
 - 取引高の拡大
 - 競合他社との差別化
- 技術力の強化
 - 技術発表会の開催
 - スマートフォンアプリの開発
 - Hadoopによるレガシーシステムの再構築
 - プロジェクト計画書の義務化
 - 品質の向上
 - 生産性の向上 (付加価値を高める)
 - プロジェクトマネジメントの向上
- 組織の強化
 - 部門の体制の見直し
 - 提案型案件の対応チーム設立
 - ビジネスパートナーとの関係強化
 - 採用基準の見直し
 - 役割分担の明確化
 - 組織内コミュニケーションの活発化
 - プロジェクトマネージャーの育成
 - プロジェクトリーダーの育成
- 原価意識の向上
 - 経費削減
 - 原価の社内公開 (システム化)
 - 見直し制度の改善
- コンプライアンス
 - セキュリティ対策
 - Pマークの取得

✓経営戦略、事業戦略、および経営層からのヒアリングなどをもとに、企業の方向性やビジネスドメイン、取り組むべき課題を明らかにし、組織や人材に関する要件をまとめる。

活用ワークショップの内容／タスク定義(1)



OUTPUT

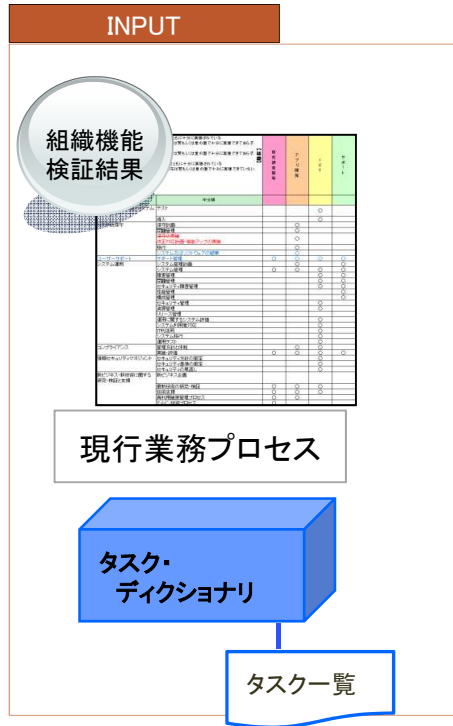
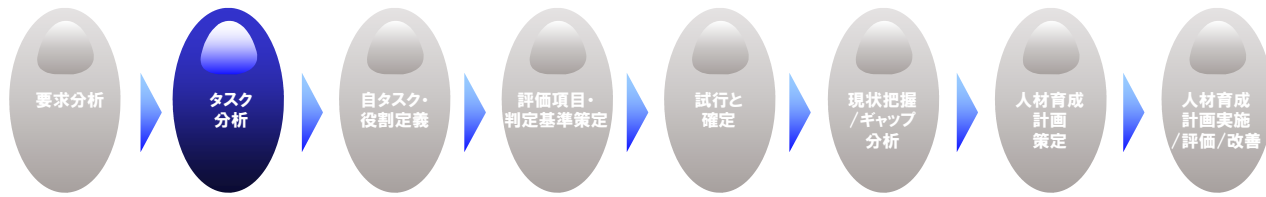
組織機能検証結果

		研究調査開発	アプリ開発	ICT	サポート
【タスク】					
大分類					
システム開発・構築/システム受入・導入	タスクの変更			○	
システム保守	保守計画 問題管理 保守の実施 改正対応計画・機能アップの実施 移行 システム及びソフトウェアの破棄		○		
ユーザーサポート	サポート管理	○		○	○
システム運用	システム管理計画 システム管理 障害管理 問題管理 セキュリティ障害管理 性能管理 構成管理 セキュリティ管理 電源管理 リリース管理 運用に関するシステム評価 システム利用者対応 IT利活用 システム移行 運用テスト	○	○	○	○
コンプライアンス	管理方針と体制 実施・評価		○	○	○
情報セキュリティマネジメント	セキュリティ方針の策定 セキュリティ基準の策定 セキュリティの見直し			○	
新ビジネス・新技術に関する研究・検証と支援	新ビジネス企画 最新技術の研究・検証 技術支援 再利用検証管理プロセス ドメイン技術プロセス	○	○	○	

タスクの追加

✓ 現行組織とタスクモデルの対応付けを行い、充足度や過不足を検証する。

活用ワークショップの内容／タスク定義(2)



✓ 要求モデル、現行の業務プロセス、組織図、業務分掌規程、および組織機能検証結果や組織責任者からのヒアリングなどをもとに、自社タスクを明らかにする。

活用ワークショップの内容／役割定義(1)



INPUT

役割タスク
クロスリファレンス I

OUTPUT

役割概要
設定

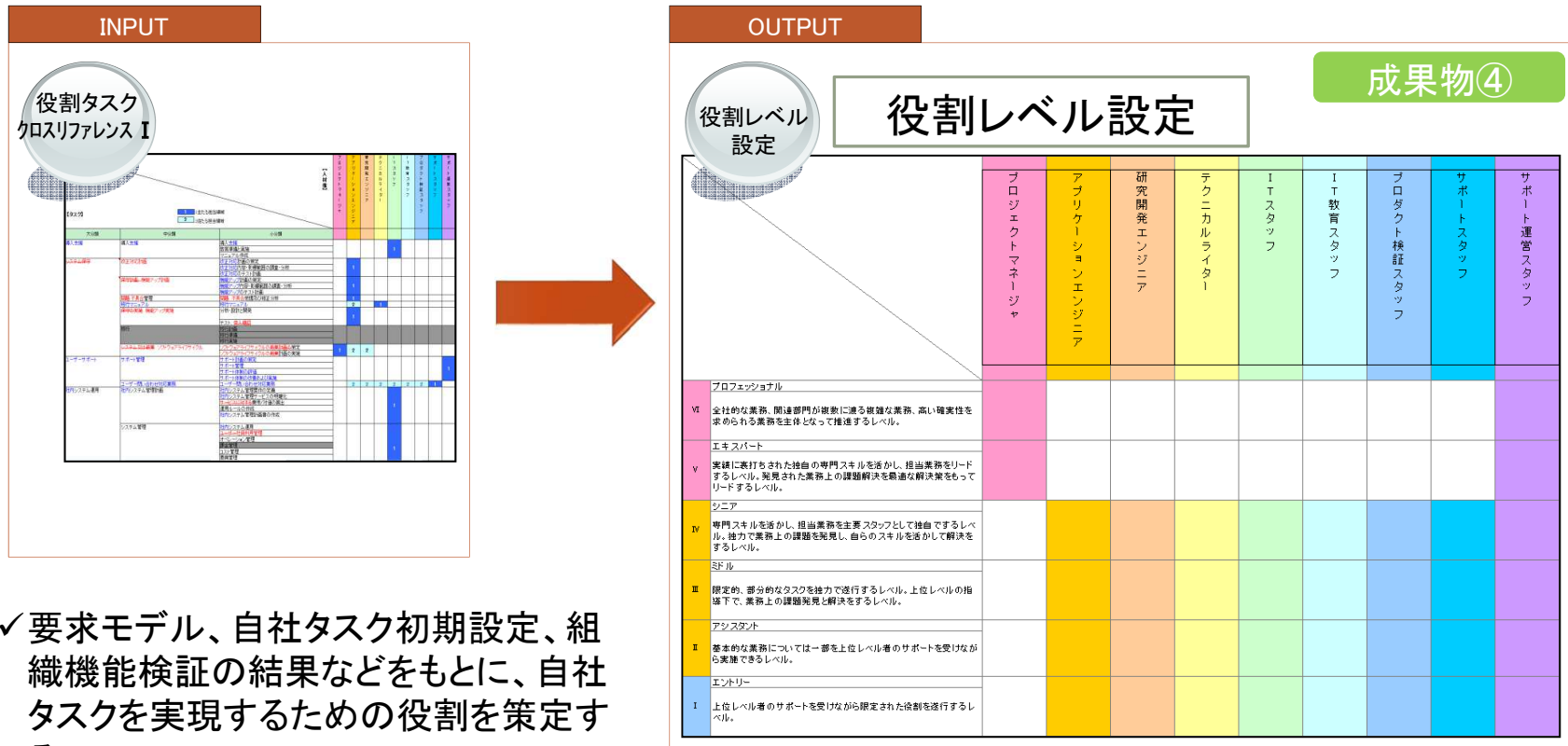
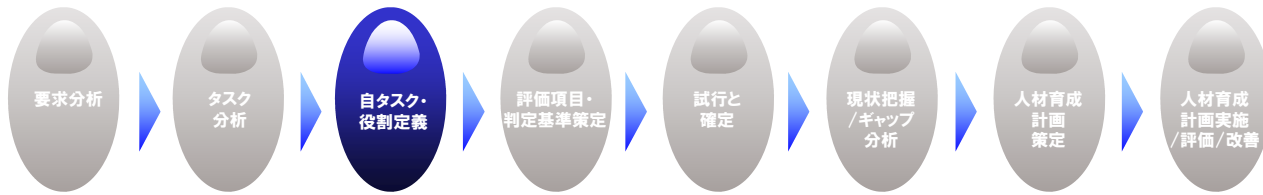
成果物⑤

人材名	人材像概要
1 プロジェクトマネージャ	部を統括し、部の業務目標の実現に責任をもつ。事業戦略立案、プロジェクト定義、リソース管理、人材育成をリードする。自組織の様々な課題解決や取り組みに対してスピーディに意思決定を行い、また人的資源管理を積極的に実行し、組織のモチベーションを維持/向上させることで自組織のあるべき姿を目指し、目標を達成する。 プロジェクトマネジメント関連技術を活用し、アプリケーション、IT基盤に関わるITプロジェクトの定義、詳細計画、実行、監視コントロール、終結を実施し、計画された目標達成に責任を持つ。
2 アプリケーションエンジニア	基幹業務知識、アプリケーション開発に関する専門技術を活用し、高い品質のアプリケーションシステムの設計、プログラム開発、テスト、リリースに責任を持つ。また、常に技術力を研鑽する意識を持ち、向上心を持ってプロジェクトに望む。
3 研究開発エンジニア	アプリケーション、システム基盤に関する最新の技術動向を把握し、適切な設計・開発手法を活用して、アプリケーション・アーキテクチャ並びにエンタープライズ・アーキテクチャの検討・設計をする。また、システム全体の整合性、一貫性、実現性に対するリスク評価の観点でレビュー・アドバイスする。
4 テクニカルライター	基幹業務知識やアプリケーションの仕様を熟知し、わかりやすいマニュアルやヘルプ、ガイド等の作成に責任を持つ。また、常に技術力を研鑽する意識を持ち、向上心を持ってプロジェクトに望む。
5 ITスタッフ	自社内のIT基盤整備。ハードウェアやネットワーク、基盤ソフトウェアなどを選定・整備したり、コンピュータシステムの安定稼働やセキュリティ対策に責任を負ったり、ITに関する知識を応用して現業部門の業績向上やコスト削減を支援したりといった業務を行う。プロジェクトに関わる大規模システムの導入支援業務を行う。
6 IT教育スタッフ	内定者教育、新入社員教育をはじめ、社員教育計画を策定し、実施、運営管理の業務を行う。
7 プロダクト検証スタッフ	社内外問わず新しいIT環境(新しいOS等)で、プロダクトを実行し、正しく動作するかどうか、適切なパフォーマンスが実現できているかどうかを確認する。
8 サポートスタッフ	エンドユーザーからの問い合わせに対し、迅速かつ正確に、電話応対を行う。
9 サポート運営スタッフ	顧客満足度調査などを踏まえて、サポート計画を策定し、管理、改善、実施、評価を行う。

- ✓ 自社役割定義の概要を明記したものを作成する。
- ✓ 現場の方々や経営層に説明する際に必要となる。

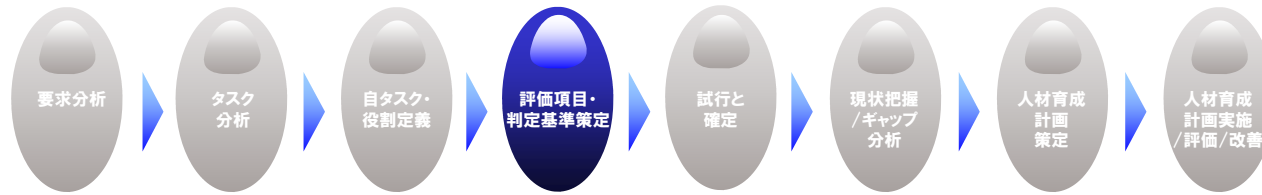
24

活用ワークショップの内容／役割定義(2)



- ✓ 要求モデル、自社タスク初期設定、組織機能検証の結果などをもとに、自社タスクを実現するための役割を策定する。
- ✓ キャリアパスを設定する枠組みにも利用できる。

活用ワークショップの内容／タスク評価項目と役割定義



INPUT

役割タスク
クロスリファレンス I

タスク・ディクショナリ

タスク一覧

OUTPUT

自社タスク
初版完成

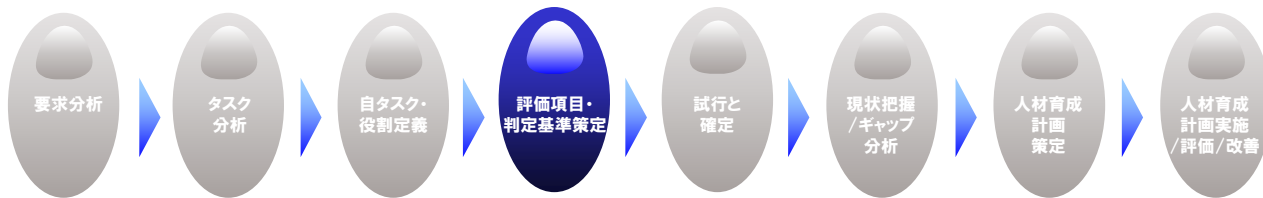
役割・タスク クロスリファレンス II

成果物⑥

タスク	大分類	中分類	小分類	スキル項目	プロジェクトマネージャー	プロジェクトリーダー	プロジェクトメンバー	ITエンジニア	ITオペレーター	プロジェクトマネージャー	プロジェクトリーダー	プロジェクトメンバー	ITエンジニア	ITオペレーター		
戦略的プロジェクト プロジェクト プロジェクト	戦略的プロジェクト	プロジェクト	プロジェクト	プロジェクトの全体像を理解し、プロジェクトの目標、対象、アプローチを把握できる	1	2	2									
				各プロジェクト実施上の前提条件把握	70%	70%	70%									
				プロジェクト全体の基本的な仕組みを把握し、制約条件を設定できる	70%	70%	70%									
				モニタリング対象の実績データを取集し、蓄積することになる	70%	70%	70%									
				蓄積するプロジェクトが、プロジェクト戦略に適合し、当初の目標の達成、価値の生成に繋がっているかを様々な指標で評価することになる	70%	70%	70%									
				定期的にプロジェクトのポートフォリオ分析(重要なプロジェクトの指標を組み合わせることによって行う分析手法)をおこなう、その変化から問題を抽出できる	70%	70%	70%									
				プロジェクト戦略における各プロジェクトのリスクについて、事業を把握した上で、優先順位を把握することになる	70%	70%	70%									
				プロジェクトリーダーと中分類プロジェクトをまとめることができる	70%	70%	70%									
				内部統制のためのコントロールフレームワーク(業務プロセス)の有用性をモニタリングできる	70%	70%	70%									
				現在のプロジェクト戦略と内部統制の整合性と有効性を評価し、コントロールフレームワーク(業務プロセス)の有用性をモニタリングできる	70%	70%	70%									
標準の維持・管理と品質管理	標準の維持・管理と品質管理	標準の維持・管理と品質管理	標準の維持・管理と品質管理	プロジェクト戦略上のリスクへの対応	1	2	2									
				リスクの管理	70%	70%	70%									
				対策策定	70%	70%	70%									
				調整等対応策の実施	70%	70%	70%									
				戦略の理解	70%	70%	70%									
				現状把握	70%	70%	70%									
				標準体系の策定	70%	70%	70%									
				標準体系の策定	70%	70%	70%									
				標準体系の策定	70%	70%	70%									
				標準体系の策定	70%	70%	70%									

✓役割とタスクのマッピングをもとに、タスクごとの評価項目をまとめ、役割単位のタスクの詳細を明らかにする。

活用ワークショップの内容／タスク評価項目と役割定義



①評価項目診断 >>>> ②タスク実行能力判定 >>>> ③役割レベル判定

<回答基準例>

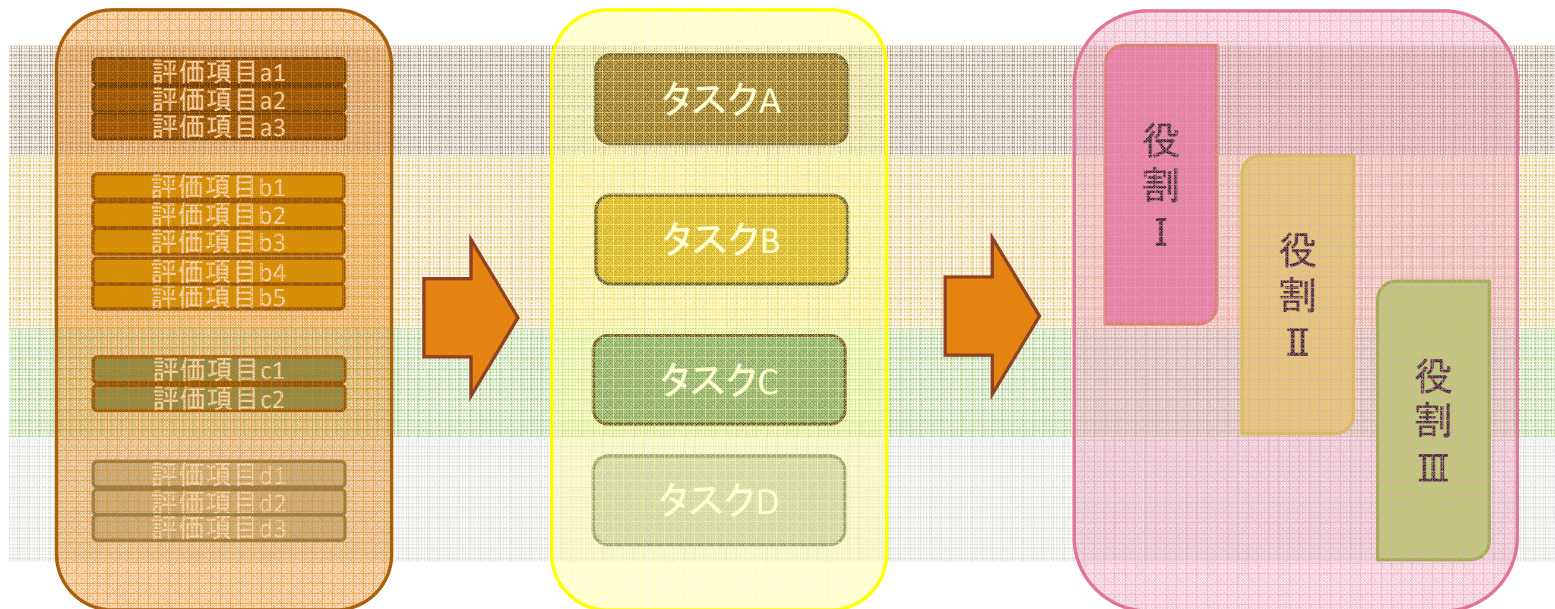
- L0: 経験も知識もない
- L1: 経験はないが知識はある
- L2: 他者の指導の下で実施できる
- L3: 独力で実施できる
- L4: 他者を指導できる

評価項目診断結果から自動判定(平均)

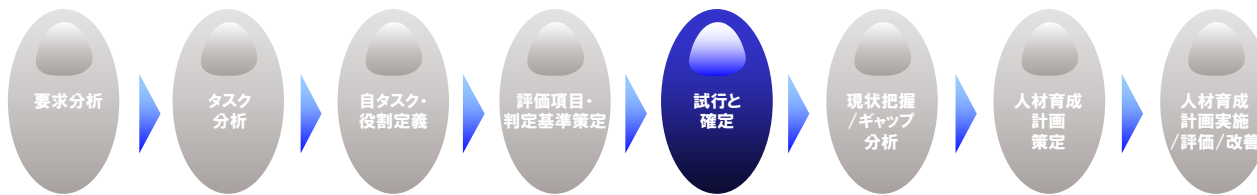
- Lv0: 経験も知識もない
- Lv1: 経験はないが知識はある
- Lv2: 他者の指導の下で実施できる
- Lv3: 独力で実施できる
- Lv4: 他者を指導できる

評価項目診断結果から自動判定

ただし、タスク小分類に対して、重み付け可能。
役割名称やレベルについては各社の定義による。



活用ワークショップの内容／パイロット・レコーディング



①パイロット・レコーダー選定 >>>> ②パイロット・レコーディング >>>> ③チューニング

※誰がどの人材像・レベルに該当するのか記入してください。レコーディングを実施する社員の情報はインシヤルでもかまいません。
 ※下記、Hさんのように1人の社員を複数の人材像・レベルに想定してもかまいません。

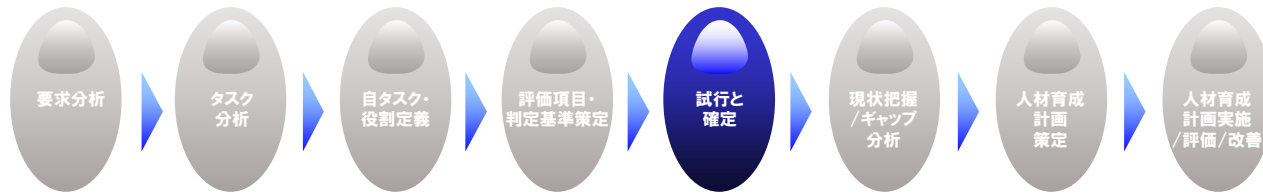
※パイロット・レコーディングを実施。
 ※あわせて、アンケートを実施。

※イメージに合うよう、重み付け等を調整

	1 ストラテジックプランナー	2 ソリューションセールス	3 ビジネスコンサルタント	4 プロジェクトマネージャー	5 ITアーキテクト	6 アプリケーションデザイナー
プロフェッショナル						
VI 全社的な業務、関連部門が複数に渡る複雑な業務、高い確実性を求められる業務を主体となって推進するレベル。						
エキスパート						
V 実績に裏打ちされた独自の専門スキルを活かし、担当業務をリードするレベル。発見された業務上の課題解決を最適な解決策をもってリードするレベル。	Aさん		Dさん	Hさん	Fさん	Hさん
シニア						
IV 専門スキルを活かし、担当業務を主要スタッフとして独自でレベル。独力で業務上の課題を発見し、自らのスキルを活かして解決をするレベル。		Bさん	Eさん	Iさん	Gさん	
ミドル						
III 限定的、部分的なタスクを独力で遂行するレベル。上位レベルの指導下で、業務上の課題発見と解決をするレベル。						Jさん
アシスタント						
II 基本的な業務については一部を上位レベル者のサポートを受けながら実施できるレベル。		Cさん				
エントリー						
I 上位レベル者のサポートを受けながら限定された役割を遂行するレベル。						



活用ワークショップの内容／診断結果見直し(2)



・現状分析の結果を基に、レベル感の調整などの最終確認を実施し、最終版を作成します。

成果物⑧

		プロジェクトマネージャ	アプリケーションエンジニア	研究開発エンジニア	テクニカルライター	ITスタッフ	IT教育スタッフ	プロダクト検証スタッフ	サポートスタッフ	サポート運営スタッフ
VI	プロフェッショナル 全社的な業務、関連部門が複数に渡る複雑な業務、高い確実性を求められる業務を主体となって推進するレベル。	Hさん								Nさん
V	エキスパート 実績に裏打ちされた独自の専門スキルを活かし、担当業務をリードするレベル。発見された業務上の課題解決を最適な解決策をもってリードするレベル。	Yさん								
IV	シニア 専門スキルを活かし、担当業務を主要スタッフとして独自でするレベル。独力で業務上の課題を発見し、自らのスキルを活かして解決をするレベル。					○さん	Tさん	Yさん		Kさん
III	ミドル 限定的、部分的なタスクを独力で遂行するレベル。上位レベルの指導下で、業務上の課題発見と解決をするレベル。		Iさん		Jさん				Dさん	
II	アシスタント 基本的な業務については一部を上位レベル者のサポートを受けながら実施できるレベル。			Aさん						
I	エントリー 上位レベル者のサポートを受けながら限定された役割を遂行するレベル。									

※ 誰がどの人材像・レベルに該当するのか記入してください。スキルレコーディングを実施する社員の情報はイニシャルでもかまいません。上記、○印のように1人の社員を複数の人材像・レベルに想定してもかまいません。(レコーディング実施者は、各人材像のレベル上下が望ましい)

参加企業による iCD活用ワークショップ評価及び感想

<パネリスト>

日本ナレッジ株式会社

サクサ株式会社

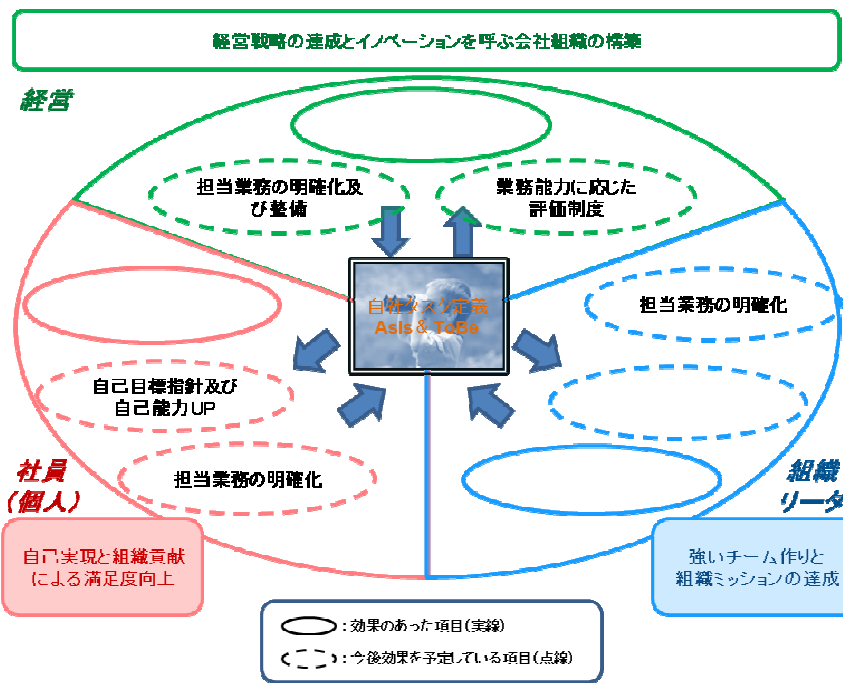
オー・エイ・エス株式会社

株式会社シー・シー・ダブル

株式会社テクノブレーン

日本ナレッジ株式会社

住所	東京都台東区寿3-19-5 Jsビル9F
設立	1986/11
資本金	71,000千円
従業員数	210名
業務内容	業務系アプリケーションソフトの開発を目的として設立、鋼材業向けのパッケージソフトを柱に素材関係業種の業務系アプリケーションソフトのシステム開発を行う。また映像処理技術を使った開発にも従事



1.2. 効果を予定している項目	予定している効果内容
業務能力に応じた評価制度	タスク評価が曖昧だったため指針とし考課の仕組みに加える
担当業務の明確化及び整備	担当業務を明確にすることにより専門的な知識を身につける
担当業務の明確化	各部門のビジネスモデル・目標・ミッションに必要な人材を明確にし、目標やミッション達成のための道筋が明確になる
自己目標指針及び自己能力UP	事業部門のビジネス目標やビジネスモデルに加え当人の志向に合致した、目標設定と能力の獲得・向上が可能になる
担当業務の明確化	業務に結びついた能力の獲得・向上と評価の仕組みを構築する

日本ナレッジ株式会社

iCDワークショップに参加した感想

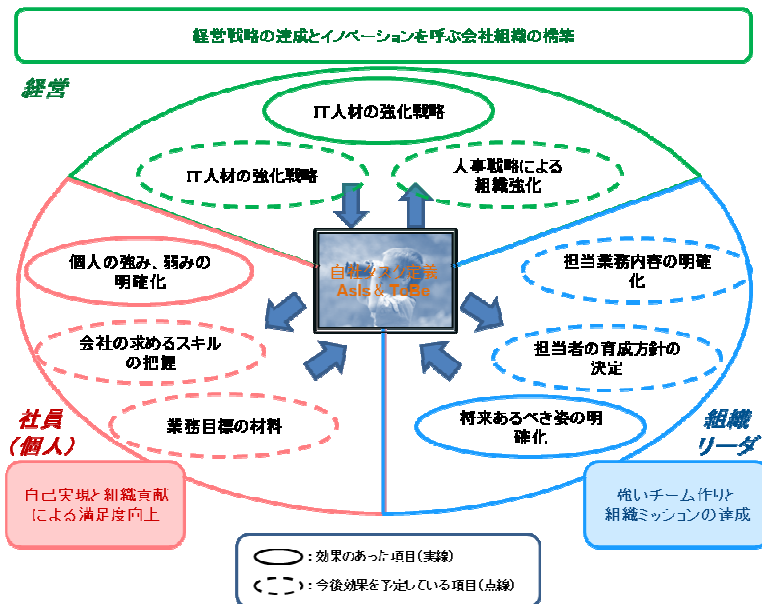
- ・当社は、部署、スキルによつてのタスク整理を行おうと思っていたので大変良いタイミングでした。
- ・iCDは我々が行っている業務(タスク)をブレークダウンした時、必要なタスクが抜けていないか、自分のタスクは何かの確認、認知に使えると思いますので、タスク整理に非常に役立つと思いました。
- ・個人にとっては、自分に必要なタスク、スキルが分かり、自分のキャリアパスも見えてくると思いました。
- ・会社にとっては、業務全体のプロセスを見える化を行うことにより、リソースの過不足、将来の重点対応ポイントも分かりやすくなると思います(人材育成や採用)。今後は、iCDのスキームを活かし、また検証業務のタスクを追記していくことで個人スキルを上げていきたいと思っています。

今後参加する企業へのアドバイス

- ・弊社の場合は兼務が多いため部署ごとのタスク整理が出来ていませんでした。
- ・業務全体のプロセスの見える化を行い、リソースの過不足、将来の重点対応ポイントが分かりやすくなると思います。

サクサ株式会社

住所	東京都港区白金1-17-3 NBFプラチナタワー
設立	2004年4月1日
資本金	107億円(2017年3月31日現在)
従業員数	426名(2017年3月31日現在)
業務内容	情報通信システムの機器および部品の開発、製造および販売



1.1. 効果のあった項目	効果内容
IT人材の強化戦略	個々の能力を把握する基盤の整理に効果があった。 (今後、導入し、活用拡大していく予定)
人事戦略による組織強化	同上
将来あるべき姿の明確化	現在実施できていないが、将来実施すべき業務の内容が明確にでき、目標を立てやすくなった。
個人の強み、弱みの明確化	個人の強み、弱みを明確にでき、現在の自己スキルを把握できた。
1.2. 効果を予定している項目	予定している効果内容
IT人材の強化戦略	個々の能力を把握することにより、サクサとして必要とする「IT人材」への育成を行い、基礎能力のベースアップを図る。強みの更なる強化、弱点の解消を行う。
人事戦略による組織強化	個々の能力を把握することにより、適材適所への人材配置、人事ローテーションを行う。
担当業務内容の明確化	役割ごとに主担当業務が明確になるため、業務の抜け漏れを防止できる。
担当者の育成方針の決定	担当者ごとのタスクのレベルが分かり、育成すべき項目を担当者も認識できる。
会社の求めるスキルの把握	会社の求めるスキルを把握し、スキルアップに利用できる。
業務目標の材料	業務目標設定に利用できる。

サクサ株式会社

iCDワークショップに参加した感想

- ・全6回のワークショップにて、具体的な作業を通してiCDの実施方法を体験でき、よく理解することができた。
- ・2014年にサポートセンタ／SE部のスキル向上を目的として、共通キャリア・スキルフレームワークをベースとして独自に評価項目(チェックリスト)を作成し、運用してきた。なにもないところから項目を作成することに比べて、一通りの項目が準備されているため、評価項目の取捨選択と一部追加でパイロット評価まで実施することができた。また、iCD活用システムにて集計や教育アイテムの確認まででき、導入にかかる手間がかなり省かれた。

今後参加する企業へのアドバイス

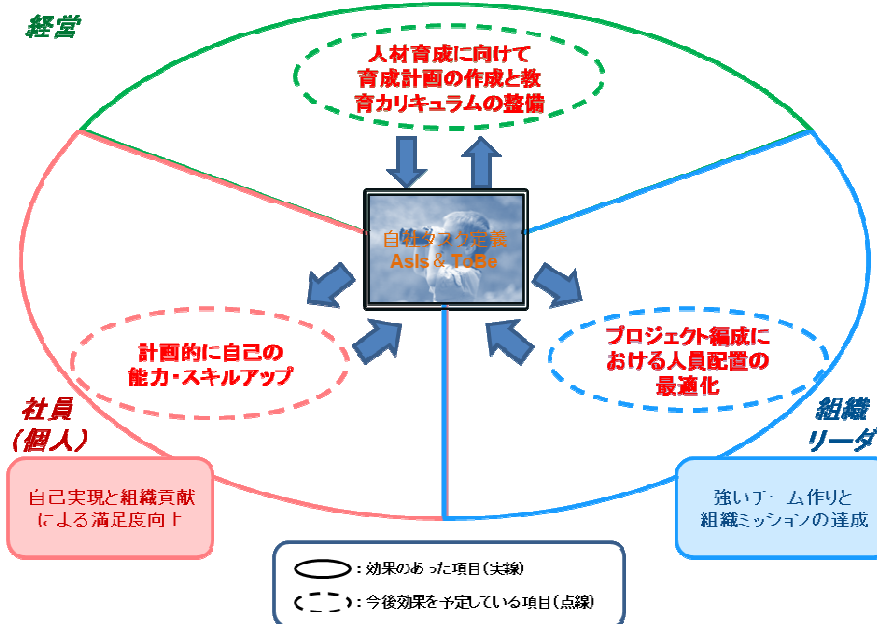
- ・自社のタスクを洗い出すことや役割を洗い出すことは、大きな労力を必要としますが、かけた労力に報いる結果・発見があります。
- ・会社のトップを巻き込むと作業がやりやすくなります。都度状況の報告をして、味方になってもらいましょう。

オー・エイ・エス株式会社

住所	東京都千代田区神田淡路町二丁目105番地 ワテラスアネックス6F
設立	1974年（昭和49年）5月14日
資本金	1億円
従業員数	220名（2017年10月1日現在）
業務内容	ソフトウェア開発 ソフトウェア・パッケージの企画・開発・販売（コールセンター向けCRMシステム、CTIシステム、クラウドサービス） Webシステムの開発・企画・構築・運営 システムインテグレーション マルチメディアコンテンツの企画・制作

経営戦略の達成とイノベーションを呼ぶ会社組織の構築

経営



1.2. 効果を予定している項目	予定している効果内容
人材育成に向けて育成計画の作成と教育カリキュラムの整備	自社に必要な能力を可視化することができ、人材育成に向けての具体的な育成計画を作成することにより、教育カリキュラムの整備がはかれる。
プロジェクト編成における人員配置の最適化	プロジェクトを立ち上げるにあたって、各個人の能力が可視化されているため、誰をどのプロジェクトに配置できるか、人員配置の最適化がはかれる。
計画的に自己の能力・スキルアップ	自分に足りない能力・スキルがわかるため、足りない部分を計画的に研修・自己学習等で補い、自己能力・スキルを高めることができる。

オー・エイ・エス株式会社

iCDワークショップに参加した感想

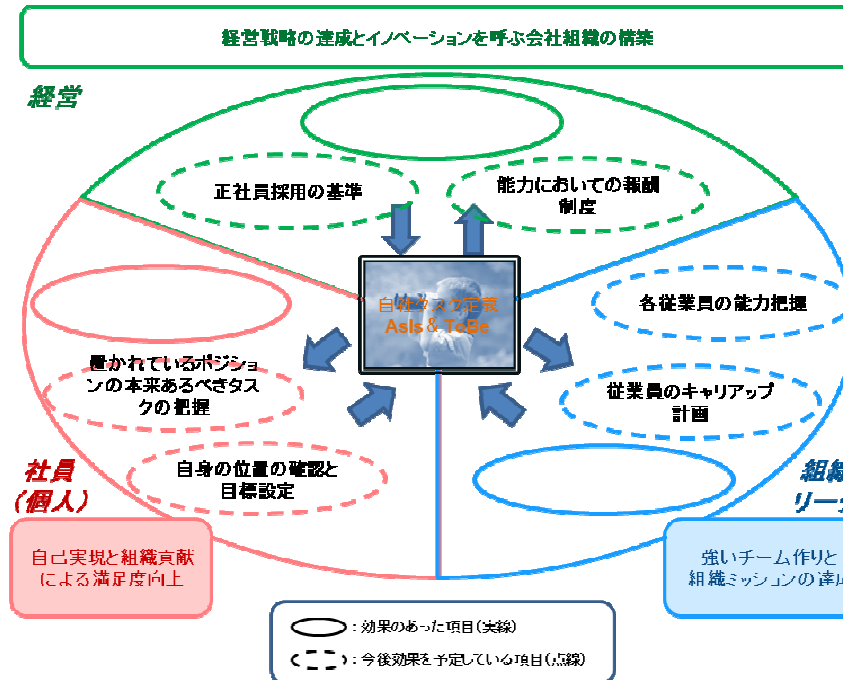
- ・第二回目参加ということで現場社員の方にも協力を得て実施ができました。これから現場への導入・運用に移りますが、来年には実施できるよう、引き続き、取り組んでいきたいと思えます。
- ・内容理解が乏しい状態での参加でしたが、回を重ねるごとにその理解も進み、最終的にはどのように活用していけばいいのかといったところまで考えられるようになりました。WSで見せていただいたヒートマップは、今後自社でも進めていこうと思いました。
- ・個人のスキルアップにも充分使えることがわかり、このiCDを使ってメンバー面談の際にこのように活用してほしいといった管理職に対する教育も将来は考えていきたいと考えています。参加させていただき、ありがとうございました。

今後参加する企業へのアドバイス

- ・弊社の場合は、ワークショップ参加メンバーに経営メンバーがいたため、最初の要件定義、タスク定義、役割レベル設定等はスムーズに進めることができました。それでも役割・タスクのクロスリファレンスとなると現場の意見が必要になり、急遽メンバーを追加してワークショップに臨みました。
- 業務の都合もあり、難しいことですが、経営者・現場作業員・管理者・事務局といった推進チームを編成してワークショップに参加した方が、各人の理解も深まり、より効率的に進められ、その後の展開もスムーズに進められると思えます。

株式会社シー・シー・ダブル

住所	東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル14F	業務内容	・テクニカルサポート&サービス
設立	1978年11月29日		・IT構築 (システム/インフラ/ネットワーク&セキュリティ)
資本金	10,000千円		・コンタクトセンター
従業員数	150名		・高度テスト/検証
			・システム開発
			・データセンター
			・ITO/BPO/KPO
			・運用/保守・アウトソース
			・地域&ファミリーサービス
			・通販事業 【ぐーもも倶楽部】
			・一般労働者派遣事業 / 有料職業紹介事業



1.2. 効果を予定している項目	予定している効果内容
正社員採用の基準	契約社員から正社員への採用プロセスとして活用する
能力についての報酬制度	管理者層以外の従業員の能力が見えるようになり、その納涼に応じて報酬が決められる
各従業員の能力把握	従業員の能力を把握する事により、次のステップへと移行させやすくする
従業員のキャリアアップ計画	従業員の配置転換がスムーズに行えるようになる
置かれているポジションの本来あるべきタスクの把握	タスクを定義しておくことで、本来行うべき作業を自身で意識できる
自身の位置の確認と目標設定	本来あるべき姿とのギャップを把握する事ができ、不得意分野の克服や得意分野の更なる向上等、目標を持つことができるようになる

株式会社シー・シー・ダブル

iCDワークショップに参加した感想

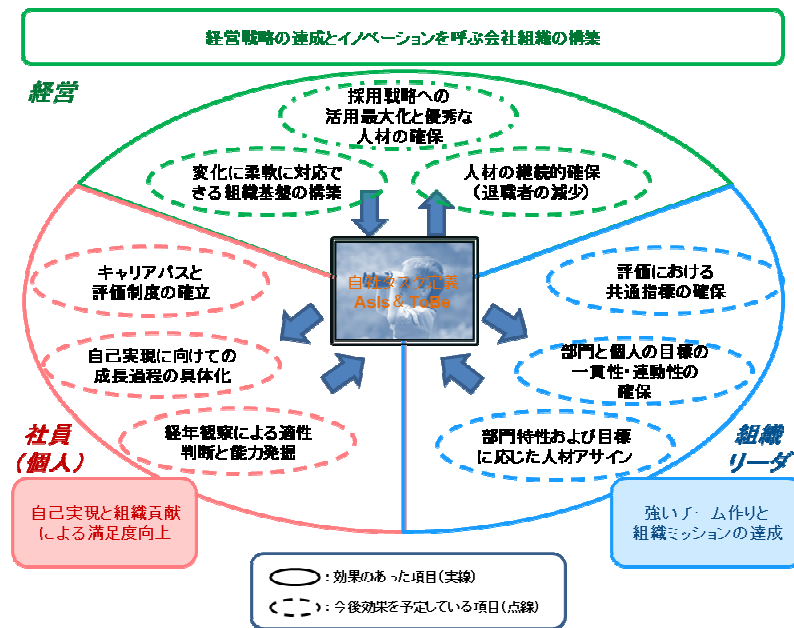
- ・従業員を評価する立場の他社の方々との交流は大変勉強になりました。
- ・それぞれに人材育成には苦勞されている事が感じられ、業界全体の課題である事も認識できました。
- ・講師の説明は分かりやすく、ステップを踏みながらiCDの活用フレームを理解する事が出来ました。ただ、各回の時間が限られているので、作業時間の割合を多めにとっていただくとありがたかったです。発表のポイントを事前に告知いただく事で、各社の発表時間が短縮できるかもしれません。

今後参加する企業へのアドバイス

- ・自社だけでは得られない、体制や考え方に触れられる良い機会です。作業は大変ですが、参加企業からヒントを得つつ進めていくとよいと思います。
- ・経営層、管理職、現場担当者と役割の異なるメンバーでチームを結成する事をお勧めします。

株式会社テクノブレン

住所	神奈川県横浜市中区長者町5-85 三共横浜ビル
設立	1993年1月5日
資本金	20,000千円
従業員数	60名
業務内容	業務システム開発や組込ソフトウェア開発を中心に自社製品開発、顧客への技術提供



1.1. 効果のあった項目	効果内容
採用戦略への活用最大化と優秀な人材の確保	採用ミスマッチ削減と応募母数の増加による採用負荷およびコストの軽減
部門特性及び目標に応じた人材のアサイン	部門目標に連動した適材適所の推進
自己実現に向けての成長過程の具体化	目標達成に向けたマイルストーンの明確化と達成感醸成

1.2. 効果を予定している項目	予定している効果内容
変化に柔軟に対応できる組織基盤の構築	人材リソースの可視化による体制変化への即応性確保
人材の継続的確保(退職者の減少)	長期的な人材活用制度による中堅社員の求心力向上
評価における共通指標の確保	現場環境や異動による評価への影響の極小化
部門及び個人目標の一貫性・連動性の確保	部門目標達成に向けた個々のモチベーション確保
キャリアパスと評価制度の確立	評価制度の簡素化と公平性及び透明性の確保
経年観察による適性判断と能力発掘	自己分析の機会創出と管理職候補の発掘

株式会社テクノブレン

iCDワークショップに参加した感想

- ・タスク基準観点でのクロスリファレンス表作成を通して、役割別のタスク配分と重みづけに関するiCDの考え方及び活用方法に関する理解が深まり、現状自社において直面している課題の整理方法について方向性が見えた。
- ・人事評価との連動をどう実現するか具体的な方策は見えていないが今後経年活用することにより何らかの連動性を見出せるのではないかと期待感を持っている。

今後参加する企業へのアドバイス

- ・参加者には相応の負荷あり。またワークショップをスムーズに進めるために社内協力体制(含む経営層)確保は必須。
- ・参加にあたって継続的に取り組む方向性(方針)を前提とした方が得。
(各種分析やロジックツリーの結果を活かす)

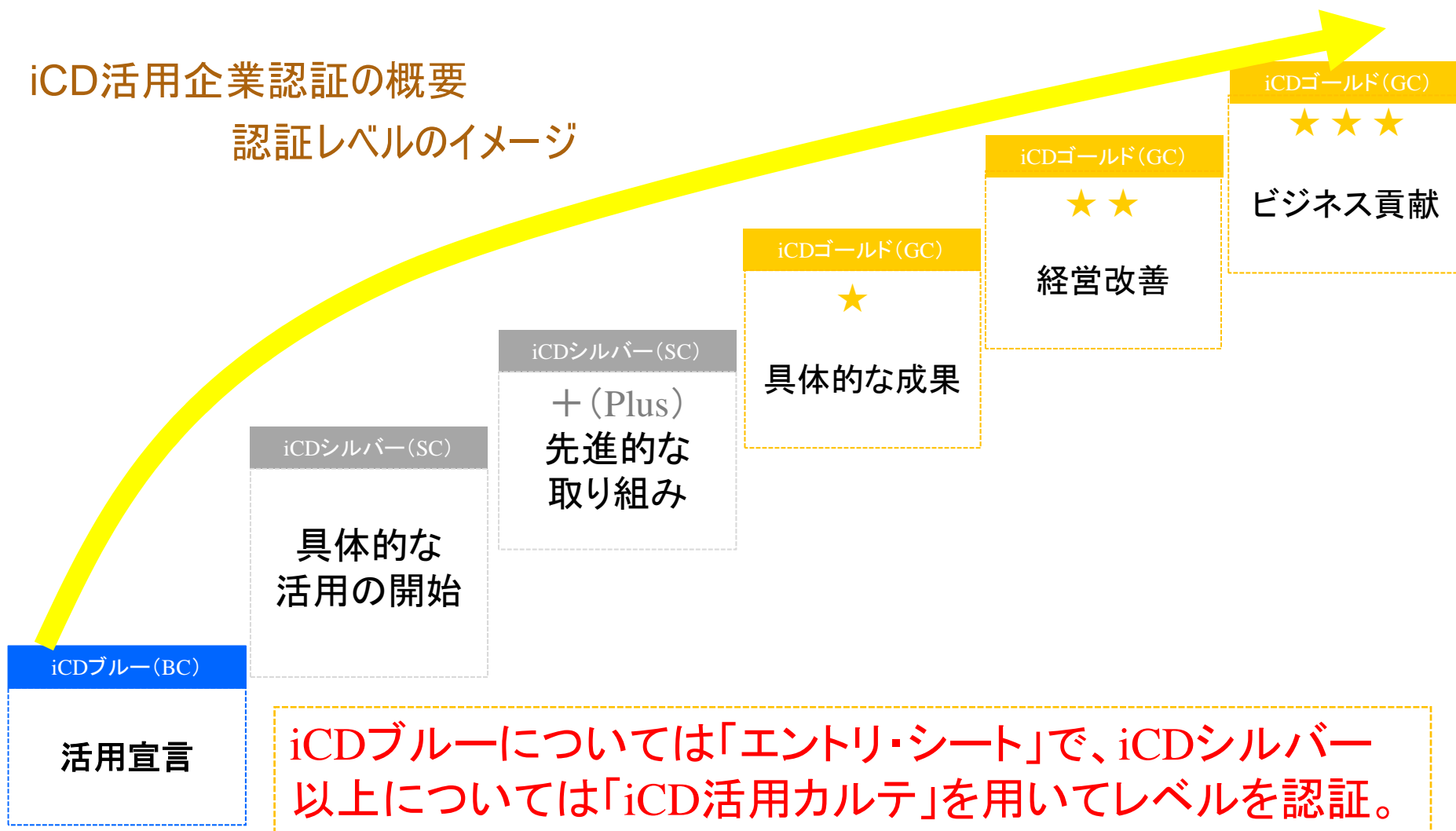
iCDの最新情報と 今後の活動について

- ・iCD活用認証制度
- ・iCDコミュニティ
- ・第7期ワークショップ参加企業募集
- ・iCD協会の設立 等

iCD活用認証制度(1)

iCD活用企業認証の概要

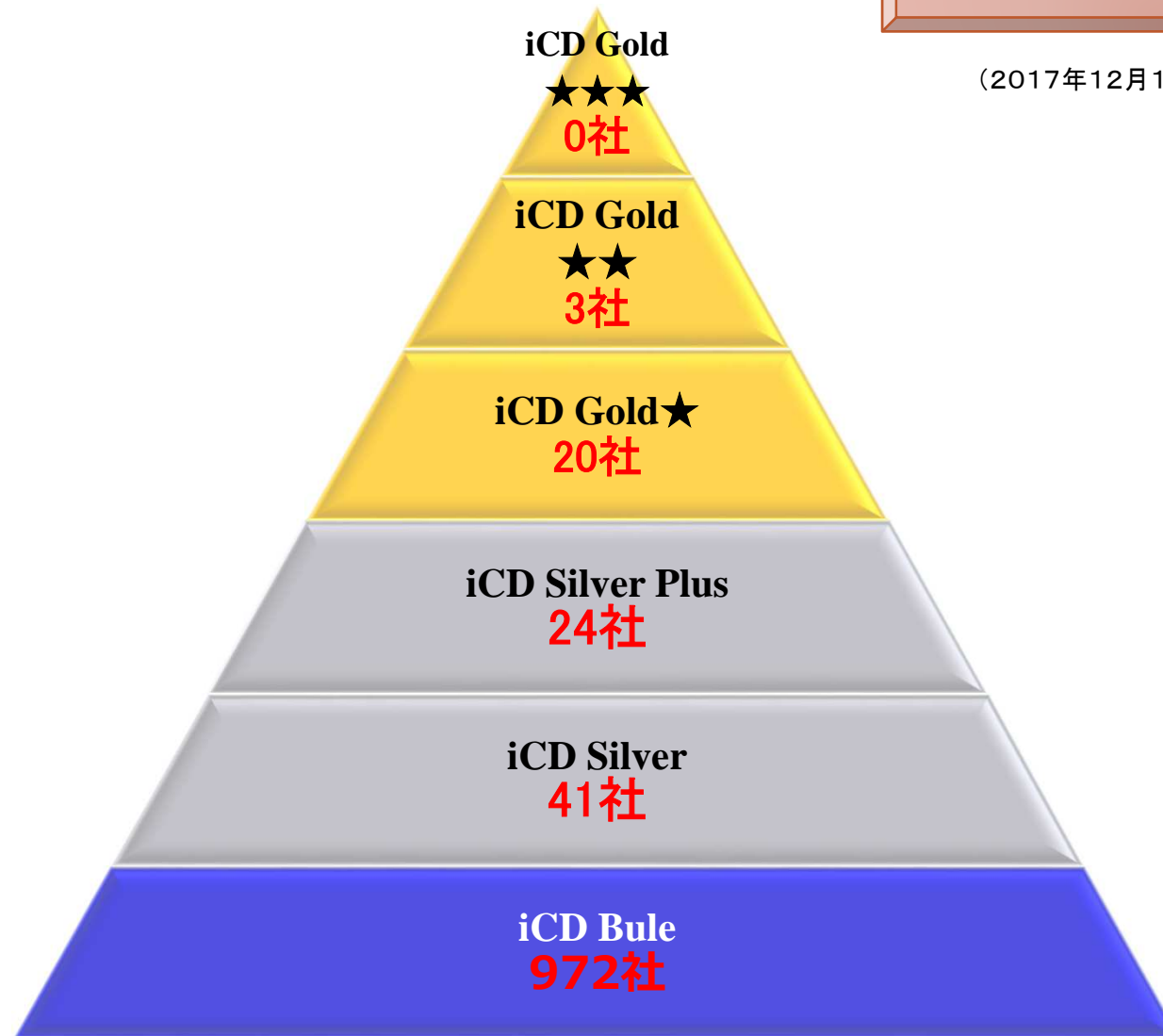
認証レベルのイメージ



iCD活用認証制度(2)

1.060社認証

(2017年12月15日現在)



iCDコミュニティ

iCD活用ワークショップ参加企業による情報交換会 (CSAJ:19社+KIA:4社+AiA6社+SAA3社)

平成29年度:2か月に1回のペースで開催

企画担当(副主査)

- ・株式会社オープンストリーム 村田哲也
- ・ジャパンシステム株式会社 猪瀬浩之

日 程

- 第1回:2017年 7月 5日(水) 15:00~17:00
/iCD最新情報, iCD活用システムの利用状況 等
- 第2回:2017年 8月28日(月) 15:00~17:00
/IPAセミナー参加報告, iCD活用システム改善要望 等
- 第3回:2017年10月18日(水) 15:00~17:00
/iCD認証Gold☆取得企業事例紹介(1)
・株式会社オープンストリーム ・創研情報株式会社
- 第4回:2017年12月 6日(水) 15:00~17:00
/iCD認証Gold☆取得企業事例紹介(2)
・株式会社アイピーエル ・日本システム開発株式会社
- 第5回:2018年 3月19日(月) 15:00~17:30
/第6期iCD活用ワークショップ実施報告会

第7期iCD活用ワークショップ

【開催日程】

事前説明会

6月29日(金) 15:00~17:00/CSAJ

第7期ワークショップ/全6回(原則3時間30分/回)

- ① 7月 6日(金) 14:00~20:00/京王永山
- ② 7月 7日(土) 09:00~12:00/京王永山
- ③ 7月20日(金) 14:00~17:30/CSAJ
- ④ 8月 9日(木) 14:00~17:30/CSAJ
- ⑤ 8月31日(金) 14:00~17:30/CSAJ
- ⑥ 9月21日(金) 14:00~17:30/CSAJ

テイクオフ・ミーティング

10月26日(金) 個別フィードバック(1社1時間)/CSAJ

第7期iCD活用ワークショップ

【募集要項】

- ・企業数: 3社～5社
- ・条 件: 最後まで参加すること
報告書を作成すること
- ・費 用: 会 員 300, 000円／社(＋消費税)
非会員 450, 000円／社(＋消費税)

※第1, 2回は合宿形式で行います。合宿費用は5人分まで費用に含まれます。

ワークショップ参加後に「iCD活用カルテ」を作成、提出すると、Silver認証

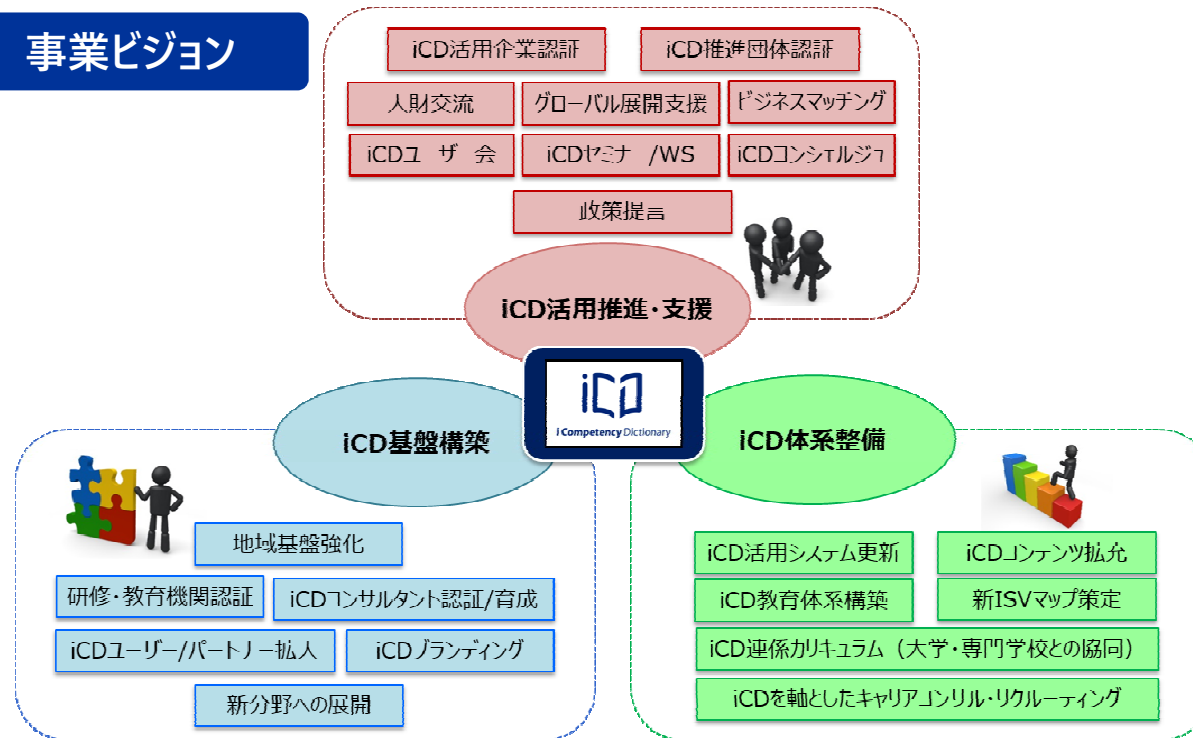


一般社団法人iCD協会 協会案内

iCD Association
Associational Profile

iCDの力で企業を、人を元気にする

事業ビジョン



iCDAでは、iCDを中心とした3つの事業ビジョンを策定し、協会や地域の垣根を超えた活動を行います。すでに活用しているiCDユーザー企業に対し、iCD最新動向やユーザー企業同士の情報交換を実施し、ビジネスマッチングや人材交流を図り、iCDユーザー企業の発展を支援してまいります。また、カンファレンスや説明会等により国内でのiCD認知度の向上を図るとともに、iCD活用ワークショップ等の実活用の機会を提供して幅広いiCDのファン作りを行います。さらに、学校関係および教育ベンダー企業等と協力し、カリキュラムや研修手法を研究する場を設け、iCDを活用した人材育成施策を実行する体制を確立してまいります。